

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、2023年度を最終年度とする中期経営計画「令和. Prosperity2023」に掲げる「売上高1兆円」、「営業利益率8%以上」を2023年度において1年前倒しで達成しました。2023年度は当社創立100周年の年であり、更なる成長に向けて、パワエレ事業、パワー半導体事業の拡大を中核とする「成長戦略の推進」、グローバルでのものづくり力強化による「収益力の更なる強化」、及び、ESG（環境、人財、ガバナンス）を中心とした「経営基盤の継続的な強化」を引き続き推し進めるとともに、外部環境変化への適応力を一層強化し、売上・利益の拡大を目指しています。

当第2四半期連結累計期間における当社を取り巻く市場環境は、カーボンニュートラルやデジタル化に向けた投資の拡大を背景に、自動車の電動化、省エネ、デジタルインフラ等の継続したニーズの高まりにより、製造業やデータセンター等の設備投資が堅調に推移しました。その一方で、中国における設備投資は引き続き低調に推移した他、世界的な金融引締め等により、先行きが不透明な状況が継続しました。

このような環境のもと、当社は、拡大する需要に対応したパワー半導体の生産能力増強や、顧客需要に対応した生産体制の最適化、部材調達における地政学リスクやサプライチェーンの混乱影響の極小化に向けた取り組みを継続して実施しました。

当第2四半期連結累計期間の連結業績の売上高は、「発電プラント」を除く4部門で増加し、前年同期に比べ446億円増加(10%増加)の4,917億円となりました。

損益面では、原材料価格及び動力費の高騰影響や、研究開発費、生産能力増強に係る費用の増加があったものの、物量の増加に加え、製品販売価格の値上げや原価低減の推進、為替影響等により、営業損益は前年同期に比べ83億円増加の350億円となりました。経常損益は前年同期に比べ57億円増加の346億円、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期に比べ41億円増加の243億円となり、売上高、営業損益、経常損益、親会社株主に帰属する四半期純損益いずれも、過去最高を更新しました。

当第2四半期連結累計期間の連結経営成績は次のとおりです。

(単位：億円)

	2023年3月期 第2四半期連結累計期間	2024年3月期 第2四半期連結累計期間	増減
売上高	4,471	4,917	446
営業損益	267	350	83
経常損益	289	346	57
親会社株主に帰属する 四半期純損益	203	243	41

部門別の状況

《パワエレ エネルギー》

売上高：1,228億円（前年同期比 6%増加） 営業損益：87億円（前年同期比 9億円減少）

施設・電源システム分野の需要拡大を主因に、売上高は前年同期を上回りましたが、営業損益は器具分野の需要減少等により前年同期を下回りました。

- ・エネルギーマネジメント分野は、産業向け変電機器及び電源機器の大口案件の増加等により、売上高は前年同期を上回りましたが、営業損益は案件差等により、前年同期を下回りました。
- ・施設・電源システム分野は、国外のデータセンター及び半導体メカ向け案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・器具分野は、セットメカ及び半導体製造装置関連の需要減少等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。

《パワエレ インダストリー》

売上高：1,712億円（前年同期比 14%増加） 営業損益：50億円（前年同期比 39億円増加）

オートメーション分野、設備工事分野及びITソリューション分野の需要増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

- ・オートメーション分野は、ファクトリーオートメーションにおけるコンポーネントの生産増を主因に、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・社会ソリューション分野は、放射線機器案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・設備工事分野は、空調設備工事の大口案件等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・ITソリューション分野は、公共及び文教分野の大口案件等の需要増により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《半導体》

売上高：1,085億円（前年同期比 12%増加） 営業損益：168億円（前年同期比 18億円増加）

- ・半導体分野は、電動車（xEV）向けパワー半導体の需要拡大により、売上高は前年同期を上回りました。営業損益は、パワー半導体の生産能力増強に係る費用の増加、原材料価格の高騰があったものの、売上高の増加により、前年同期を上回りました。

《発電プラント》

売上高：325億円（前年同期比 6%減少） 営業損益：1億円（前年同期比 6億円増加）

- ・発電プラント分野は、前期の再生可能エネルギーの大口案件の影響により、売上高は前年同期を下回ったものの、営業損益は案件差及び原価低減の推進等により、前年同期を上回りました。

《食品流通》

売上高：532億円（前年同期比 19%増加） 営業損益：54億円（前年同期比 22億円増加）

- ・自販機分野は、国内の需要拡大に加え、原価低減の推進等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・店舗流通分野は、コンビニエンスストア向け店舗設備機器の改装需要拡大に加え、カウンター機材案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

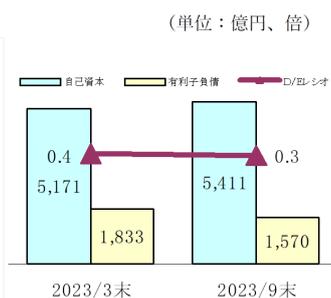
《その他》

売上高：313億円（前年同期比 9%増加） 営業損益：21億円（前年同期比 5億円増加）

(2) 財政状態に関する説明

	2023/3 末	構成比 (%)	2023/9 末	構成比 (%)	増減
総資産	11,816	100.0	11,729	100.0	△86
有利子負債残高	1,833	15.5	1,570	13.4	△263
自己資本	5,171	43.8	5,411	46.1	+240
D/Eレシオ	0.4		0.3		△0.1

*自己資本＝純資産合計-非支配株主持分
*D/Eレシオ＝有利子負債残高/自己資本



当第2四半期末の総資産は11,729億円となり、前期末に比べ86億円減少しました。流動資産は、契約資産、棚卸資産が増加した一方、現金及び預金、売掛金の減少などを主因として、115億円減少しました。固定資産は、投資有価証券が、売却及びその他有価証券の時価評価差額相当分の減少を主因として減少した一方、有形固定資産の増加などを主因として、29億円増加しました。

有利子負債残高は、当第2四半期末では1,570億円となり、前期末に比べ263億円の減少となりました。なお、有利子負債残高から現金及び現金同等物を控除したネット有利子負債残高は、当第2四半期末では974億円となり、前期末に比べ17億円の減少となりました。

純資産は、利益剰余金及び為替換算調整勘定の増加を主因として増加し、当第2四半期末では5,958億円となり、前期末に比べ237億円の増加となりました。なお、純資産合計から非支配株主持分を控除した自己資本は前期末に比べ240億円増加し、5,411億円となりました。D/Eレシオ（「有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末に比べ0.1ポイント減少の0.3倍となりました。なお、ネットD/Eレシオ（「ネット有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.2倍となっております。

当第2四半期連結累計期間における連結ベースのフリー・キャッシュ・フロー（「営業活動によるキャッシュ・フロー」＋「投資活動によるキャッシュ・フロー」）は、132億円の資金の増加（前年同期は492億円の増加）となり、前年同期に対して360億円の資金流入額の減少となりました。

〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕

営業活動による資金の増加は348億円（前年同期は599億円の増加）となりました。これは、棚卸資産が増加した一方で、税金等調整前四半期純利益の計上並びに売上債権及び契約資産が減少したことなどを主因とするものです。

前年同期に対しては、250億円の資金流入額の減少となりました。

〔投資活動によるキャッシュ・フロー〕

投資活動による資金の減少は216億円（前年同期は107億円の減少）となりました。これは、投資有価証券を売却した一方で、有形固定資産を取得したことなどによるものです。

前年同期に対しては、109億円の資金流出額の増加となりました。

〔財務活動によるキャッシュ・フロー〕

財務活動による資金の減少は419億円（前年同期は357億円の減少）となりました。これは主として、長期借入金の返済並びに社債の償還によるものです。

これらの結果、当第2四半期末における連結ベースの現金及び現金同等物は、前期末残高に対して246億円減少し、596億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間の連結業績動向等を踏まえ、部門別には次のとおり差異がありますが、2023年7月27日の決算発表時に公表した2024年3月期通期の連結業績予想は修正しておりません。

第3四半期以降の為替レートは、140円/US\$、150円/EURO、19.5円/RMBを前提としています。

(2024年3月期通期 連結業績見通し)

(単位：億円)

	前回発表	今回発表	増 減
売上高	10,600	10,600	0
営業損益	960	960	0
経常損益	945	945	0
親会社株主に帰属する 当期純損益	645	645	0

(参考：部門別)

(単位：億円)

	前回発表		今回発表		増 減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	3,370	292	3,320	270	△50	△22
インダストリー	4,030	325	4,060	326	30	1
半導体	2,250	338	2,230	343	△20	5
食品流通	960	50	990	65	30	15
その他	600	34	600	38	0	4
消去または全社	△610	△79	△600	△82	10	△3
合計	10,600	960	10,600	960	0	0

2024年3月期第3四半期より、パワエレ エネルギー事業、パワエレ インダストリー事業、発電プラント事業を、エネルギー事業、インダストリー事業に再編し、「エネルギー」、「インダストリー」、「半導体」、「食品流通」、「その他」の5区分にセグメントを見直しております。なお、「エネルギー」、「インダストリー」の前回発表の数値は、変更後の報告セグメントの区分に組み替えたうえで表示しております。